

# 恵庭市立恵庭小学校

指定年度：H30～  
児童数：691名

## 1 包括的な学校改善に向けた取組の概要

- 全教職員による課題の明確化や改善策の決定に課題があったことから、以下の取組を重点的に進めた。
  - ① グランドデザインの作成～学校・家庭・地域が一丸となった子どもの育成～
    - ・実態把握から指針の提示  
CSや役員会、学校評価等から学校の実態を把握し、学校力を高め、改善していく指針としてグランドデザインを作成し、様々な場面において提示した。
    - ・繰り返しによる浸透  
職員会議における校長方針の提示や日報を活用した教頭からの発信、ホームページや学校便りを活用した家庭・地域に対するグランドデザイン提示等により、重点目標の浸透を進めた。
    - ・オンラインの活用  
働き方改革の視点からも積極的にオンライン等を活用し、保護者への通知を日常的に行ったり、アンケート等についてオンラインで集計したりした。
  - ② 企画運営委員会と分掌体制～協働意識を高め、スムーズな学校運営の推進～
    - ・テーマを示した企画運営委員会  
事前に具体的なテーマを示すことで焦点化した話し合いを行い、時間短縮に努めた。
    - ・適材適所の人材配置  
職員個々のよさや能力を生かせるよう、担当する学年や分掌の人材配置を工夫することで、互いに高め合える組織づくりを進めた。
  - ③ 教職員の資質向上～互いに高め合い、個々が生きる学校づくり～
    - ・服務の確認と浸透  
職員会議や朝の打合せなどで、繰り返し教育公務員としての自覚を促すとともに、管理職との面談等を実施し、服務の指導及び確認を行った。
    - ・教職員のコミュニケーション  
日常的な管理職による授業参観やメンター研修の実施等により、互いに研鑽し、認め、高め合う教師集団づくりを進めた。
    - ・学校便りの工夫  
俯瞰して物事を見て考え、発信する意識を高めるため、学校便りの巻頭言を各分掌に依頼することで、個々の経営参画意識を高めた。
    - ・「報連相」から「確連報（かくれんぼう）」へ  
教職員一人一人に確認・連絡・報告を意識させることで、業務に対して受動的ではなく、能動的に自ら考え方行動する教職員の育成を進めた。



【学校便り】

## 2 取組の成果と課題 （□：成果 ■：課題）

- 今年度の重点目標が教職員や子どもたちに浸透し、相手を意識した挨拶や時間を守った行動ができるようになった。また、保護者アンケートの結果、学校の情報公開について、肯定的な回答が9割となるなど、学校の取組について理解を得ることができた。
- コロナ禍の中、様々な教育活動を実施するにあたり、若年層を中心に改革の意識をもって教育活動を推進していく姿が見られるなどチーム力の向上を図ることができた。
- 働き方改革を含めた意識改革（授業の質の向上・業務の仕分け・実施内容や方法の見直し等）が教職員全体に広がっていない現状から、教育目標の達成を目指したカリキュラム・マネジメントの推進を継続し、よりよい学校運営や教育活動に向けて、業務を改善する必要がある。
- 社会に開かれた教育課程の実現に向けた方策として、学校便りの工夫に加え、教職員の参画によるホームページの更新やオンラインを活用したアンケートの実施など、発信及び受信方法を工夫改善する必要がある。